



## 《共通事項》

### ◆定期的なかん水について

晴天が5～6日(砂を含む土は4日)続いたら20～30mm程度のかん水を行なう。  
 10a全体に1mmのかん水をするには水1,000ℓが必要です。樹冠下に集中して行う。

## 《あんず》

### ◆杏品評会について

品評会につきましては、災害のため今年は中止となりました。

### ◆灰星病対策について

発生が心配されますので、前回情報を参照に、第7回収穫直前防除並びに(補)防除を徹底する。

## 《プルーン・すもも》

### ◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除:定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
  2. 耕種的防除:園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
  3. 処分方法
    - ①被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
    - ②土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
    - ③厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
    - ④放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。
  4. 被害果の特徴
    - ①アメをだす。
    - ②果面に地図を描く。
    - ③果面が黄色や紫色に変色。
    - ④落果している。
- ※なお、市場に出荷した生産物に被害果が混入し、出荷者が確定できるクレームがあった場合は、例年と同様にその出荷者のクレームとなった数量の精算をゼロとすることになっております。  
 荷造りに際しても厳重に選果して出荷をお願いします。

### ◆第8回薬剤散布について

新梢が混み合うと薬液が十分付着せず、病虫害被害が助長されるので、新梢管理を徹底する。

1. 散布時期…6月14日(水)～18日(日) 実際散布日記入 月 日
2. 調合量…水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
フントフロアブル	50mℓ	灰星病	前日まで
アデントフロアブル	50mℓ	シンクイムシ類	前日まで
(ダニゲッターフロアブル)	50mℓ	(ハダニ類)	前日まで

3. 散布量10a当り ⇒ 400ℓ



## ◆プルーン・スモモ出荷資材の配布について

下記の日程により、注文いただきましたダンボール等資材を配布致します。

地区名	配布場所	配布日	配布時間
篠ノ井西部地区	西部流通センター	7月5日(水)	午前9:00～11:30 ※資材を早く必要とする方は、西部流通センターに問い合わせ下さい。
篠ノ井東部地区	東部流通センター	対象者の方に後日連絡致します。	
松代地区	松代農業総合センター	対象者の方に後日連絡致します。	
川中島町地区	川中島共選所	7月3日(月)	午前9:30～11:45
更北地区	真島フルーツセンター	対象者の方に後日連絡致します。	
若穂地区	若穂流通センター	6月29日(木)・30日(金)	午後1:30～午後4:00

## 《なし》

### ◆第8回薬剤散布について

- 散布時期・・・6月28日(水)～7月2日(日) 実際散布日記入 月 日
- 調合量・・・水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
カネマイトフロアブル	100ml	ハダニ類	前日まで
スミチオン水和剤 40	100g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	有袋14日前まで 無袋21日前まで
オキシラン水和剤	200g	黒斑病・輪紋病	3日前まで

- 散布量・・・10a当り⇒棚栽培4500ℓ／立木栽培5000ℓ以上
- 留意事項
  - ①カネマイトフロアブルに代えて、マイトコーネフロアブル 1,000 倍(水 1000 当り 100ml)を使用してもよい。
  - ②うどんこ病の発生が心配される場合は、オキシラン水和剤に代えてナリアWDG2,000 倍(水 1000 当り 50g)を使用してもよい。ただしル・レクチュには薬害が発生するので散布しない。
  - ③有袋栽培の場合はスミチオン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤 1,000 倍(水 1000 当り 100g・年 3 回)を使用してもよい。
  - ④有袋の場合は、オキシラン水和剤を600倍(水 1000 当り166g)で使用してもよい。

### ◆新梢管理について

日本なしは、新梢伸長が停止した枝から順に棚面に対して45度くらいに誘引する。特に棚下から発生する新梢は、棚面まで伸びてきた際に小張り線をくぐらせておく。  
側枝の基部近くが徒長しやすくなるので、発生した新梢は除去するか4～5cm(展葉4枚)で摘心する。また、伸長が停止した新梢は、斜めに誘引し側枝候補とする。  
側枝中間部分では、上側から発生した新梢を除去する。  
側枝先端は、養分が先端に行くように立ち上げる。  
短果枝から発生する新梢は、赤い芽のうちに欠くか、葉4枚を残して摘心する。

### ◆なしに「赤衣病」の発生が多くなっています

グリーン長野管内も昨年より発生がみられています。この病気は梨以外にも「りんご」「ビワ」「イチジク」「かんきつ」でも発生する。山間部の谷間や日陰の多い園、霧が出やすい所で発生が多い。管内ではりんごへの発病が確認されている。

## 1. 病斑

「胴枯病」や「枝枯病」と同様に**枝幹部に発生**する。菌は傷口(特に日陰)から侵入し、最初は白色の菌糸が広がり、6月の**梅雨時期**に急速に広がり**淡紅色の菌**となる。

菌が広がると樹皮が剥がれ落ちやすくなり、フラン病や胴枯病と同様に被害になった所から先は枯死する。

## 2. 対策

①発見したら切除し焼却する。

②主枝や主幹で病斑が小さい場合は、削り取りバッチレートかトップジンMペーストを塗布する。

削り方はりんごのフラン病の処理方法と同様で、健全なところまで大きく削り取り、傷が治りやすい(樹液が流れやすい)ように紡錘形にする。

心配な方は果樹技術員までご相談下さい。

# 《うめ》

## ◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期・・・**収穫後** (7月初旬) 実際散布日記入 月 日

2. 調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
トップジン M 水和剤	66g	胴枯病・黒星病	21 日前まで
㊦ダイアジノン水和剤	100g	アブラムシ類	21 日前まで

3. 散 布 量・・・10a当り⇒500ℓ

## 4. 留意事項

①この散布によって胴枯病と早期落葉を軽減することができる。

②枝幹部へも散布を行う。

③アブラムシ類が多発している園は、㊦ダイアジノン水和剤に代えて㊦モスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍 (水 100ℓ当り 50g)を使用する。但し、**収穫中や収穫間際の品種には絶対にかけない**。

④この時期に中太枝を整理し傷口保護のために、トップジンMペーストを塗布する。

## ◆新梢管理について

若木等徒長枝の旺盛な園は7月にかけて徒長枝・不要な枝を2～3回に分け整理する。花芽分化期であるので結果枝に陽を当てるが日焼けに注意し徐々に整理する。

### 《栽培に関する問合せ》

寺澤 (篠ノ井西部・信田) : 080-1188-5229 / 外谷 (篠ノ井東部) : 080-8048-6602

松橋 (松代) : 090-4816-6297 / 佐藤 (川中島) : 090-7179-9866

根津 (更北) 080-1203-8576 / 元田 (若穂) 282-2002

吉澤 (全域・編集担当) : 090-2543-0365 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

### ○果樹のアドバイザー (流通センター長兼務)

松澤 (若穂) 080-1191-5166 / 伊藤 (篠ノ井東部) 080-2239-6816

松坂 (篠ノ井西部) 080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

《資材に関する問合せ》各 J A ファーム・営農資材センター・経済部 / 農業資材課 : 299-3311